

深刻な声続々と…開所期間を延長

2月10日の開設以降4月末までに、49件（来所35件、電話14件）、56名の方から相談が寄せられました。相談内容の内訳は、生活（お金）29、仕事29、住居24、健康7、年金2、雇用保険2、その他3（複数集計）となっており、2階の宿泊者も、のべ10名が利用されるなど、地域の労働者・住民の方々の深刻な状況が浮き彫りになっています。このことは「年越し派遣村」が目に見えるかたちで明らかにした「貧困」が、決して一部の地域や人々のことではなく、全国各地でそしてこの水島でも起こっているという現実をあらためて明らかにしています。

この間、ほっとスペースでは、連携した対応と行政への運動をすすめながら、相談者の方々と一緒に住居の確保や生活保護の申請、ハローワークへの手続きなどを行ってきました。相談のなかで「住まいがない（路上、ネットカフェ、カプセルホテル、友人宅、車上生活など）」方や「退寮となる」方が21名おられました。現在18名（雇用促進住宅への入居4名、市営住宅への入居2名、民間の借家9名、他4名）が住まいを確保することができています。また、相談者のうち12名が生活保護を申請、全員が受理され、受給することができました（ほっとスペースでの住所申請6名）。緊急援護資金も17名が利用することができ、当面の生活を繋ぐことができています。

当初の予定では、ほっとスペースの開所期間は4月末までとし、その後は状況を見て検討するとしていましたが、この間の相談数や、労働者や地域住民の深刻な生活実態などをみても、こうした状況はまだまだ続くと予測されることから、開所期間を延長することとしました。同時に、行政の責任で住居や生活、仕事を保障させることなど、引き続き行政への運動を強めていく予定です。



路上生活や車上生活の方々が急増!

5月に入り、11日までにすでに9件の相談と、新たに3名の宿泊者がありました。夜回りボランティアでの対話や元三菱自工の派遣・期間工の方々の情報によると、ここ何日かで路上生活や車上生活の方々が急増している、特に若い方が増えているとのこと。また、ハローワークは連日長蛇の列で、周辺の道路まで失業者で溢れています。失業給付受給手続きの説明会には1日あたり約800人が参加しているそうです。

★カンパ額…492,460円(5/12現在)★

～ご協力ありがとうございます!!～

※扇風機を募集しています!

裏へ続く

ほっとスペース25

お困りのこと、お悩みのこと
がありましたら、何でもお気軽に
ご相談下さい。電話でも
来所でも結構です。

月～金 9:00～16:00
444-8725

水島協同病院北（駐車場前）
倉敷医療生協労働組合隣

あすなろ

派遣・労働者支援センター
岡山市北区春日町5-6
電話086-234-2041
FAX086-221-3595
2009年6月4日 第3号

～岡山市雇用対策課への要請と懇談を実施～

派遣・労働者支援センターでは5月27日(水)に岡山市の雇用対策課へ要請をおこないました。はじめに、全国で19万人の解雇者が発生しており、6月～7月を中心に更に首切りが発生する状況にあること。野宿生活者に若年層が増えていることなどの実態が報告されました。

★ 四項目の緊急要請を提出

要請は①市長自ら経営団体などに「解雇を行わないように」と要請すること。②民間借り上げなどを含めて住居の確保をすること。住居に風呂の設置を市としておこなうこと。③市の担当窓口を周知し支援の体制をつくること。「市立青年の家」等を活用して、シェルターを設置すること。「シェルター」を確保して運動をしている市民団体に「助成金」をだすこと。④失業、倒産などが理由で経済的に困難になった児童、生徒への授業料減免制度の拡充について検討することなどを主な内容として提出しました。



★ 岡山市の対応は？

①の「解雇おこなわないように」との要請については、現在企業がなんとか持ちこたえている状況で大幅な収入減のところもある。4月以降も厳しいが国の調整金などを使って中小企業で研修を実施してほしいとお願いしている。②の風呂については住宅課や生活課へ伝える。③のシェルターについては市営住宅を20戸確保しているが満杯の状態。雇用促進住宅は少しあいており、原則6ヶ月で貸し出すが見つからずハローワークの要請があれば継続できる。またハローワークに融資制度もあるが、国の方針により10月からの予定で使いやすい制度を検討中。④の減免措置については教育委員会の担当となるので調査すると回答されました。

★ 目線を相談者にあわせて、きめの細かい対応を！

参加者からは「市営住宅の順番待ちの状況を知らせるなど細かな対応をしてほしい」「これからの時期はみんなフロに入りたいが一人400円かかる。フロ券を配るなどを検討してほしい」「市は積極的にシェルターなどを設置してほしい。宣伝をしたいがうちも満杯の状態です5人～10人來られると困る」との意見や「JRの宿舎は国民の財産だった。岡山駅の西口開発はJRの価値を高めている。宿舎の利用ができるようにJRの社会的責任を要求できるのではないかと」の提案が出されました。また「大量の首切りは地震と同様に『個人の責任によらない事態』として対応すべき。特別の性質の問題として取り組まないといけない」と行政のあり方を問う意見も出されました。

市の担当者は「今の状況がいつまで続き、中小企業が持ちこたえるか心配。災害と同様との考え方は必要。住宅確保の話も担当局へ伝えてきたい。」と回答しました。また、「ハローワークで相談の待ち時間5時間かかる、しかも1回30分しか利用できない」と求職難の状況を話すと「5時間待ちの話は、はじめて聞いた」と現場との温度差が垣間見える場面もありました。最後に担当者は「これまで住民税を払ってきてくれた人たち、個人的には確約できないが努力したい、いろいろと提言をいただければと思う」と話されました。

